

5分で読める

一からわかる再配置



H31.3.25
Vol.63
(最終号)

公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。

お世話になりました

年に一度、庁内がざわつく人事異動の内示が終わり、来週からは新年度です。いろいろな思いを持って多くの職員が異動していきますが、まずは、今月末をもって退職される先輩の皆様にお礼を申し上げたいと思います。

相変わらず厳しい財政が続く秦野市ですが、長い間、私たち後輩を引っ張り、よきお手本となりながら、住民サービスの維持向上にご尽力いただきましたことに、改めて感謝を申し上げます。今まで本当にありがとうございました。

さて、読者の皆さまにお知らせがあります。

「一からわかる再配置」は、今回をもって休止させていただくことになりました。

この「一からわかる再配置」は、平成26年6月、その年に異動してきた職員のアイデアで発行を始めました。当初は、敵の多かった仕事です。こっそりと「いつも読んでいます」と声をかけてくれる職員がいました。1年後くらいになると、「次はいつ出るの」と声をかけてくれる職員もいました。

約4年と9ヶ月にわたり、63号まで発行を重ねることができたのは、こうした職員の皆さんに支えられたおかげです。また、ホームページでも公開していることから、視察の受入れや研修のお手伝いの際には、他の自治体の職員や議員の方も大勢読んでくれていることを知り、そのことがまた励みにもなりました。

しかし、職員の皆さまもご存知のとおり、公共施設マネジメント課は行政経営課に統合され、専任できる職員の数も減ります。たとえ月に1~2回程度の発行とはいえ、内容を充実させるためのデータの収集や分析には、それなりの時間を要します。慣れていない職員であれば、なおさらでしょう。

来年度から次期再配置計画の策定作業が本格化する中で、この「一からわかる再配置」の発行を続けさせることは、後進に重荷を残していくことになりかねません。また、いつの間にか発行しなくなっているのは、楽しみにして下さっている方にも申し訳がありません。

そこで、公共施設マネジメント課であるうちに、幕を閉じさせていただくことにしました。

手前味噌かもしれませんが、「一からわかる再配置」の内容は、他自治体を含めた多くの職員の方の気づきにつながったのではないかと考えています。また、11年にわたり続けてきた公共施設再配置の取り組みの最大の成果は、ハコモノが3,000㎡減ったことでも、15億円の効果額があがったことでもありません。ハコモノのあり方やそのコストに対して、多くの職員の意識が高まったことだと思っています。

公共施設更新問題が本格化するのは、まだ少し先ですが、公共施設マネジメント課がなくなっても、「一からわかる再配置」がなくなっても、この効果は、消えることなく組織の中で生き続けていくと信じています。

最後になりますが、これからも何かの新しいプロジェクトにかかわるときや、既存の事業を見直すときは、

「将来の市民の負担をできるだけ増やさない方法を考える」、
「政策の根拠となるエビデンス(証拠)を見つける」、
「公民連携手法を進める」など、

これらの公共施設の再配置のポリシーを思い出し、政策の立案に当たってください。より多くの職員がそうすることができるようになれば、きっと、激変の時代を力強く、そしてしなやかに生き抜く組織になれるはずです。

長い間のご愛読、まことにありがとうございました。

おわり 